

第1回 国道343号笹ノ田地区技術課題等検討協議会の概要

1 日時 : 令和5年3月24日(金) 13時30分~14時25分

2 場所 : 岩手県議会棟 1階 大会議室

3 出席者

(委員)

井良沢 道也 岩手大学 名誉教授

南 正昭 岩手大学 理工学部 教授

北村 安 岩手県 県南広域振興局 土木部 一関土木センター所長

野崎 弥 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 大船渡土木センター所長

照井 巧 岩手県 県土整備部 技術参事兼道路建設課総括課長



4 内容

- 国道343号全線の中で、約7割の平面線形不良箇所が集中している笹ノ田峠が路線最大のあい路であることを確認。
- 笹ノ田峠は、急カーブや急勾配が存在する区間が連続しており、規格の低い道路構造であることを確認。
- 笹ノ田峠には、複数の断層が確認されており、破碎帯が存在している可能性が高いほか、亀裂の発達により脆弱な法面となっている可能性があることを確認。
- 笹ノ田峠では、過去に交通死亡事故が発生しているほか、自然災害や交通事故による通行規制が複数発生していることを確認。

5 次回協議会に向けた主な意見

- ループ橋の路面凍結など、特に冬期の課題が多く、冬期間のみ笹ノ田峠を回避し、迂回する道路利用者もいるため、道路利用者の声も重要。
- 土砂災害に関する過去の履歴や地形の確認等は、航空レーザ測量データの活用も有効。
- 道路構造と路線の重要度・利用状況の両面から課題を定性的、定量的に整理していくことが重要。

6 今後の検討の進め方

- 今回いただいた意見の整理・分析を行った上で、次回の協議会では、笹ノ田峠周辺地域の観光交流や産業の状況等の面から、現状の課題を確認し、対策の必要性・効果を検討する。